

# 外国人受け入れ整備を

## 任せて労務管理

### 社労士がアドバイス

働き方改革に企業はどう向き合っべきか。保育、建設、介護、医療の4分野のうち、第3回となる介護の1回目は、県社会保険労務士会の介護労務管理小委員会から千原智礼委員長、吉田紹子副委員長に話を聞いた。

（江田由美）

### 3 介護—1

千原 2010年に58万9千9百人だった埼玉県内の65歳以上の高齢者は、25年に100万人を超える見込みです。高齢者が増える一方、特に都心部の介護職員不足は深刻で、18年10月の有効求人倍率は平均4・00倍。仕事がキツイ、賃金が低いという印象が強い一方で、介護職に比べて採用段階から希望者が少ないのが特徴です。

吉田 さらに離職率。介護



県社労士会介護労務管理小委員会の千原智礼委員長（左）と吉田紹子副委員長

な対応できない。介護業界

2・6%。賃金も、英、独、伊など海外と比べ、見劣りする。という調査結果もあります。

千原 日本語を勉強して来日する外国人労働者が多い反面、日本人は英語をあまり勉強せず、「日本に合わせて」というスタンス。外国人労働者間の情報ネットワークは侮れず、会員制交流サイト（SNS）で「日本は働きにくい」との情報が行き渡れば、「英語が一般的な国」「多国籍がある国」など、日本よりも特別な外国人、として見られない国に行ってしまうもおおしくありません。

吉田 人材確保のために、入職3年未満の職員の教育、研修がこれからは大事になってきます。外国人に対しても、大切なのはコミュニケーション。日本型経営の素晴らしさや、日本型介護の良さを獲得してもらうなど、日本のイメージアップに取り組んでいく必要があると思います。それが、時間外労働などを抑えることになり、適切な労務管理につながるはず